【日時】平成16年10月6日(水) 午後1時30分～午後3時15分

【場所】職員会館かもがわ 大会議室

【出席委員】郡鷲部会長，岡松委員，熊淵委員，佐伯委員，新川委員，高月委員，中島委員，堀委員，松本委員，山内委員

1 開会

郡鷲部会長からあいさつ。

2 議事

(1) 指定袋制の導入方式について(3つのパターン)

配布資料に基づき事務局から説明。

(郡鷲部会長)

京都市が導入すべき指定袋の方式を3つに絞り込み，それぞれについてメリット・デメリットを評価するという形で資料がつけられている。まとめ方等について御質問等あると思うので，委員の皆さんから御意見をいただき，最終的にはこの部会での評価ということで，市民アンケートを行う際に参考として添付するというにしたい。

費用負担の公平化については，これからの高齢化社会を考えると年金生活者にも配慮が必要になると思うが，そうすると市の財政負担が増えることになる。そうした要素も含めて考えていただければと思う。

(山内委員)

費用負担の公平性は最重点に置くべき。

私たちは最前線でごみを見てきているが，低所得者のごみ排出量が少ないかというむしろ多い場合もある。排出量に応じた公平性確保を図ってほしい。

(郡鷲部会長)

言い忘れていたが，年金生活者はごみ分別にかける時間的余裕があると思うので，きちんと分別してごみを出せば負担が軽くなるようなやり方もあると思う。先ほどの発言は，そうした人たちのためだけに行政が無理をすべきということではない。

(飯島委員)

前回でも議論になったが，許可業者が毎日収集するマンションが増えている。家庭系ごみであるのに，事業系ごみの扱いになり，住人が費用負担している。また，我々スーパーでは毎日多くの生ごみを出している。非常に多く出している者には耐えられないくらいの負担になるのかどうか。排出量による負担のあ

り方について不安を感じている。

(事務局)

従来は家庭ごみは直営収集，商店などからの事業系ごみは許可業者収集ということであったが，最近はマンションごみが許可業者によって収集されている場合もある。そういったマンションでは，管理費の中にごみ処理費用が含まれているので，更に家庭ごみ有料化となった場合には二重に処理費用を徴収することになる。

事業系ごみの指定袋制については手数料改定とも密接に絡むので，今後検討していきたい。

(岡松委員)

資料の案によると，ごみの4区分「家庭ごみ」「缶・びん・ペットボトル」「小型金属」「プラスチック製容器包装」のうち，「小型金属」は指定袋でなく「透明袋であれば可」となっている。4区分とも指定袋にしないのか。

(事務局)

「小型金属」は排出量が非常に少ないと見られるため，透明袋による自由排出とした。

(中島委員)

指定袋制について生活学校のメンバーで話し合ってみたところ，次のような意見が出てきた。

異物混入防止のために袋は透明にすべき。

袋の大きさを何種類かつくってほしい。

単純指定袋制ではごみは減らない。ごみ減量を目的にするならば有料指定袋制にすべき。

マンション居住者への周知は難しい問題になると思う。自治会に入っておらず回覧も見られないようなところで，管理人がいなければどうなるか。指定袋以外の袋で出されたごみの取り残しを徹底してほしい。京都市のように定点収集の場合には，誰が出したごみかという問題も出てくるだろうが，しっかり普及啓発を行ってほしい。

3つのパターンのうちどの手法を採るべきかについては，超過量制の有料指定袋制を求める声が多かった。

(堀委員)

低所得者層への配慮やマンションの問題はあるが，それらを理由にして，ごみ減量という指定袋制の本来の目的をそらすべきではない。ごみ減量に資する指定袋制のあり方を固め，それに伴って出てくる問題は別途に解決方法を考えるべきと思う。

(熊淵委員)

最初から有料指定袋制を導入しても、市民の協力が得られるのか。まず、単純指定袋制を導入し、分別の徹底をはかる。そのうえで、さらに必要があれば有料指定袋制を導入するというやり方も考えられるのではないか。

(郡嶋部会長)

御指摘の通り、市民の本音を聞く必要がある。アンケートやタウンミーティングなどを経ながら慎重に検討していきたい。

(松本委員)

事業系ごみには透明の推奨ごみ袋がある。推奨ごみ袋にしてから、不適切に混入していた大型ごみ等が減り、全体として2割くらい減った。美観上も青・黒のごみ袋より透明袋の方が好ましい。指定袋制導入を真剣に考えるべき時期に来ていると感じる。市民にごみ減量意識が浸透するような方式を採用して欲しい。

(郡嶋部会長)

これまでの委員の皆さんの意見では、指定袋制をごみ減量に資するものにすべきという意見が多かったと思う。

(山内委員)

参考までに、ごみに対する意識の高い市民からは、有料化すべきという意見が多かった。

(郡嶋部会長)

ただし、有料化にあまり期待をかけすぎず、ごみ減量やりサイクルの促進策も考えていかなければならない。そうでなければ、金さえ払えばそれでいいという、誤った意識付けがなされてしまうおそれもある。

(2) 指定袋制のあり方に関するアンケート調査(案)について

配布資料に基づき事務局から説明。

(堀委員)

数としては、単純指定袋制を支持する意見が多数集まると思う。しかし、制度設計をどうするかによって、結果は変わってくるのではないかと思う。例えば、有料指定袋制によって市が得る収入の分だけ1世帯につきいくらか減税をして、それでもたくさんごみを出す人は有料にするなどとすれば、有料化でも賛成という人が増えてくるのではないか。そういう選択肢があってもいいのではと思う。

(事務局)

今現在、京都市では新税の検討をしているような状況であり、そういう意味では減税は難しいと思う。有料制を採る場合、その収入は市民のごみ減量活動の支援に利用するなど、使い道を工夫する中で市民の理解を求めていきたい。

(郡島部会長)

税の二重取りの話は必ず出てくるので、その対応として、減税を行ったり、ごみの減量化への施策を通じて補助を行ったりするということはあると思う。

ただ、お金がどういうふうに動いたかという透明性も必要であり、それを確保するためには減税がいいのか補助という形を採るのかという話もあると思うが、それは後の議論にするということで、とりあえずここでは補助をするという形で書かれているので、それで勝負するということになるかと思う。今後市民から意見が出てくれば、また取り上げて議論することになると思う。

(事務局)

少し補足する。

京都市職員の中でも実験的にアンケートを実施してみたが、やはり前振りが長いという指摘があった。ポイントだけを絞って、質問に回答しやすいように工夫する。

また、堀委員から減税のお話があったが、新たな負担をすることによって多少痛みを伴うが、自分たちの生活や未来の生活がどう豊かになっていくかという方向性をある程度示して、どういうことを求めているかということとセットのアンケートでなければならぬと思うので、部会長とも相談しながら修正させていただきたい。

(郡島部会長)

確かにそのとおりであり、有料化を選択することにより痛みだけではなくライフスタイルがどう変わり、どう京都の環境に資するのかという関係を示していただければと思う。

(中島委員)

ページ数が多く、また専門用語も使われているので、市民には読みにくいと思う。もう少し簡略化してほしい。また、指定袋の定義が一般の市民にとって重要であると思うので、はっきり明記してほしい。

(佐伯委員)

スーパーなどの事業者の方にも、商品を守る側としてどういう思いでおられるのか、並行してアンケートを取ってみてはどうか。

(郡 鷲 部 会 長)

あまり手を広げるとアンケートが複雑になるので、今回は御勘弁いただいて指定袋制導入に絞らせていただきたい。販売店のアンケート等は、次の段階で検討するという事にさせていただきたい。

ところで、指定袋制を導入すると、ごみ袋を購入していた人はともかくとして、それまでレジ袋でごみを排出していた人にとっては負担感が相当程度増すことになるが、そういった人には、お年寄りなどあまりごみを出さない人が多い。これをどう考えるべきかが一つの問題。

(熊 淵 委 員)

名古屋では、レジ袋に指定袋の印刷をしたものがそのまま指定袋として使われているケースがある。

(飯 島 委 員)

名古屋では行政からの指導があってそのような措置が採られている。

今までの統計によれば、指定袋制を導入している都市ではマイバッグの持参率が高いかと言うと必ずしも関連していないという点が気になるところである。

(郡 鷲 部 会 長)

その辺りの話については、再度改めてこの部会で検討していきたい。

(岡 松 委 員)

アンケート案3ページの円グラフで数値が欠落しているので、修正願いたい。

また、有料化を実施している自治体が42%とあるが、現時点ではもっと増えているのでは。新聞などでは8割という数字も出ていたように思うが。

(事 務 局)

もっと高く出されている数字は、大型ごみなどの有料化も含めての数字と思われる。

(岡 松 委 員)

第2回部会の時、環境省の調査結果として、「家庭ごみ有料化の全国状況」のグラフが紹介されていた。アンケート案では京都市が調査したように受け取られる可能性があり、「環境省の調査による」ことを記載した方がよい。

(熊 淵 委 員)

ごみ処理経費について、kg当たり68円とあるが、袋当たりの費用はいくらになるのか。

(事務局)

その下のところに45リットル袋で300円と出ているが、これが実は有料化になった場合に45リットル袋をいくらで売るか考える際の基準になる。

(郡篤部会長)

1年間の1世帯当たりごみ処理費用を示すと分かりやすいのでは。

(事務局)

そうした費用や、ごみ処理にかかる総費用をお出しすることにする。

(郡篤部会長)

そういう情報がある方が、財政難の中でごみ処理にこれだけ費用をかけているということが切実に分かって良いと思う。

それから、指定袋制はごみの発生抑制のために検討しているという一文を入れてほしい。

以上、指定袋制とは何かを明確にする、ごみ減量に資するための制度であること、ごみ処理に多額の費用を要していること、指定袋制導入の効果、を押さえた上で、一般市民が読みやすく回答しやすいアンケートを事務局が作り、調査を実施することにしたい。

(高月委員)

このアンケートを出した場合、缶・びん・ペットボトルの混合収集を続けたまま指定袋制を導入するのかという声も上がると思う。どうするか検討が必要では。

また、市として費用面も含めて体制・労働条件等の対応がスムーズに行くのかどうか、その見通しが無いままに突き進むと危険だと思うのだが、その辺りの状況はどうか。

(事務局)

シミュレーションによれば、支出は収入の範囲内で収まる計算である。

収集体制についても、各まち美化事務所に説明しているが、そのレベルでは有料化も含め透明袋をぜひやっていこう、取り残しもきっちりやると決意していただいております。そういう意味では、人的体制、財政能力いずれの面から見ても実施は可能であると思う。

ただ、例えば北九州市のケースでは、指定袋制導入から最初の2週間は、ボランティア1万人、職員2,000人が各定点で早朝指導を行っている。最初の啓発はビラまきや説明会だけでは不十分で、北九州市のようにまず現場を押さえて、指定袋以外のごみは持って帰らせるということを浸透させなければならぬ。そこまでやればあとはスムーズに行くと思うので、本市でも環境局だけではなく市を挙げて支援をお願いするようにこれから取り組んでいきたいと

思っている。

(3) 今後のスケジュールについて

配布資料に基づき事務局から説明。

第4回部会：11月6日(土)に、市役所前広場で開かれる「京路地フェスタ2004」(ごみ祭)のステージ企画「青空タウンミーティング」として行う。